

特別企画

[SP5]特別企画5

医療を支えるデザインと映像 “昭和、平成と駆け抜けた各界のレジェンドたちが体験を通して次世代へ伝える”

座長:今中 秀光(宝塚市立病院 ICU), 重光 秀信(東京医科歯科大学学生体集中管理学)

2019年3月2日(土) 15:50 ~ 17:20 第1会場 (国立京都国際会館1F メインホール)

《医療を支えるデザインと映像》

“昭和、平成と駆け抜けた

各界のレジェンドたちが体験を通して次世代へ伝える “

●病室にアミューズメント？ 快適環境プロジェクト

【 EMC Effective Medical Creation 奈良医大の試み 】

井上聡己(奈良県立医科大学集中治療部 病院教授)

●医療現場における笑顔を作る薬剤？

【 色彩とデザインの力 】

武澤恵理子(一般社団法人総合デザイナー協会理事、同医療委員会委員長)

●医師から映画監督の世界へ

【 映画ヒポクラテスたち 】は今？

大森一樹(京都府立医科大学卒業、映画監督、大阪芸術大学映像学科学科長)

●ファッションからライフスタイル、アートまで

【 変幻自在のデザイン思考 】

コシノヒロコ(ファッションデザイナー、神戸ファッション美術館名誉館長)

この度の学会のテーマは【次世代のために】

昭和、平成と続いた時代が幕を閉じるにふさわしいシンポジウムとなる様に50代60代70代80代の経験を重ねた感性豊かなメンバーからのメッセージをお届けいたします【デザインと映像で医療をささえる？】『Effective Medical Creation? E.M.C.?』『病室にアミューズメント?』『医療と映像?』『医療と色彩?デザイン?』

意味わからん！と思いの方々 医療の世界を専門的な視点からだけではなく、ハートフルな視点でお考えいただけたらと思います。

まずは映像の世界ではテクニカルな3Dを駆使した画像展開も医療現場においては多々登場してまいりましたが、医療の世界を題材にした映像 特に[映画]の世界では その世界観の中に 人々の心の展開を様々な形で表現し問題を投げかけています。 時には納得し、考えさせられ、希望を見つけ 助けられ 時には怒りが込み上げてくる事も誰しもが経験ある事ではないでしょうか。 それは薬剤投与や医療処置と同じ役目を担い効果をもたらしています。[映画]によるユニークな視点から医療現場における 学問、技術、教育、そして人間力をどのように高めていくかをも探索していきたいと思います。

一方では、同じ医療現場において、色彩とデザインをベースとしたE.M.C. Effective Medical Creationの存在をお伝え致します。

Science (エビデンスや生理学) とArt (医療倫理や環境デザインの最適化など) が患者のケアに極めて密接に関

わっていることを長年にわたり経験した医師と同じ経験を持つデザイナーとの米国での共同研究によってE.M.C Effective Medical Creation は確立されました。

あらゆる角度から最大限に、そして効果的にマネジメントするチーム医療や、多職種回診、ユニフォームデザイン、視認デザインなどから始まり、【五感(視覚, 聴覚, 触覚, 味覚, 嗅覚)と想感(知恵と思いやり)】、を連動し現場に働きかけることにより、患者・家族・医療従事者の気付きと経験を構築したICUの快適空間作り,E.M.C、Art of Medicineを検証していきます。 Creative and Critical Thinkingの実験空間として病室を非日常的なアミューズメント感覚に変貌させ検証していきました。 生命維持装置等の高度な診療機器や薬物的介入などの治療だけではなく、音、光、香、衣、笑、安、眠、季、色、心、などICU環境に関わるあらゆる要素を取り入れながら、【五感と想感】を最大限に用いた患者ケアを現場に還元させました。さらに Art of Medicineの一貫として患者ケアの鍵となるコミュニケーション能力の改善や多職種連携やスタッフ達のストレス解消そして個々の能力を最大限に発揮できる環境作りを、次世代の為に 大森一樹監督、コシノヒロコデザイナー、井上聡己教授、武澤恵理子 E.M.C.プロデューサーと共に考えたいと思います。

[SP5-4]ファッションからライフスタイル、アートまで？

【変幻自在のデザイン思考】

コシノ ヒロコ (ファッションデザイナー、神戸ファッション美術館名誉館長)

【オンデマンド配信】

文化服装学院在学中に日本デザイナー協会デザインコンクール1位受賞。1964年大阪心斎橋にオートクチュール・アトリエを開設し、1977年以降毎年二度東京コレクションに参加している。1978年には日本人として初めてローマのアルタ・モーダで作品を発表し、以後パリや上海など世界各地でコレクションを発表。1995年米国ワシントンDCで開催された国際アパレル連盟総会では、アジア代表デザイナーとして講演を行った。その一方で、異分野のアーティストとのコラボレーションにより、ファッションの枠にとらわれない数々のイベントも開催。

神戸芸術工科大学客員教授、文化ファッション大学院大学客員教授、神戸松蔭女子学院大学客員教授、追手門学院大学客員教授、台湾実践大学名誉教授。神戸ファッション美術館名誉館長。関西経済同友会会員。

1997年第15回毎日ファッション大賞、2001年大阪芸術賞受賞。2011年から12年にかけて放映されたNHK連続ドラマ「カーネーション」のヒロインのモデルとなった小篠綾子の長女で、妹のコシノジュンコ、コシノミチコとは、「コシノ三姉妹」として知られる。

HIROKO KOSHINOの名で6つの婦人服ブランドを展開するほか、バッグや靴、帽子などの小物、ライフスタイル関連グッズ、紳士服など、数多くのファッションアイテムのデザインを手がけている。学校制服、企業ユニフォームのデザインも数多く、2012年からは体操競技日本代表ユニフォームのデザインを担当。2018年には、東京医科歯科大学のRisk Assessment System (RAS) チームのユニフォームもデザインした。アーティストとしても精力的に活動しており、国内外で多くの個展を開催するほか、自身の作品を発表するスペースとして銀座と芦屋にKHギャラリーを開設。2017年、デザイナー60周年記念本『HIROKO KOSHINO it is as it is あるがまま なすがまま』を出版。制作した絵画をオリジナルテキスタイルに落とし込みコレクション作品をデザインしたり、絵柄をプレタポルテ製品に使用したり、また墨絵作品を大型スクリーンにプリントして展覧会やイベントで利用するなど、モードとアートの世界を変幻自在に行き来している。

長唄三味線は名取の腕前で、所属する長唄杵勝会の全国大会が2019年4月末に東京歌舞伎座で開催される際には

「勸進帳」を演奏するほか、クライマックスの「抄曲集」では舞台背景を担当。墨絵を用いた大型スクリーンを設置し、家元や師範たちが次々に披露する長唄の名曲に合わせて複数のデザインの舞台背景を披露する予定。